



ネットワークの設定

- [ネットワークの設定 \(1 ページ\)](#)
- [設定の概要 \(2 ページ\)](#)

ネットワークの設定

ネットワークの設定によっては、次のポートを使用したアクセスを許可するように、ファイアウォールを設定することが必要になる場合があります。SMTP サービスおよび DNS サービスでは、インターネットにアクセスできる必要があります。

Web セキュリティ アプライアンスは、以下のポートをリッスンできる必要があります。

- FTP : ポート 21、データ ポート TCP 1024 以上
- HTTP : ポート 80
- HTTPS : ポート 443
- 管理アクセス : ポート 8443 (HTTPS) および 8080 (HTTP)
- SSH : ポート 22

Web セキュリティ アプライアンスは、以下のポートで発信接続できる必要があります。

- DNS : ポート 53
- FTP : ポート 21、データ ポート TCP 1024 以上
- HTTP : ポート 80
- HTTPS : ポート 443
- LDAP : ポート 389 または 3268
- LDAP over SSL : ポート 636
- グローバル カタログ クエリー用の SSL を使用した LDAP : ポート 3269
- NTP : ポート 123

- SMTP : ポート 25



(注) ポート 80 および 443 を開いておかないと、機能キーをダウンロードできません。

詳細については、Cisco Web セキュリティ アプライアンスのご使用の AsyncOS バージョンに関するユーザー ガイドでファイアウォール情報を参照してください。

設定の概要

項目	説明
管理	<p>http://192.168.42.42:8080 と入力するか、システム セットアップ ウィザードを実行した後で管理インターフェイスに割り当てられる IP アドレスを使用して、管理ポートから Web セキュリティ アプライアンスを管理できます。</p> <p>(システムセットアップウィザードの再実行などにより) 工場出荷時のデフォルト設定にリセットした場合は、管理ポート (http://192.168.42.42:8080) からしか管理インターフェイスにアクセスできなくなるため、必ず管理ポートに接続できるようにしてください。</p> <p>また、管理インターフェイスでファイアウォール ポート 80 および 443 を開いていることを確認します。</p>
データ	<p>システムセットアップウィザードを実行した後は、ネットワーク上のクライアントから Web トラフィックを受信するように、アプライアンス上の少なくとも 1 つのポート、つまり M1 のみ、M1 と P1、M1、P1、および P2、P1 のみ、または P1 と P2 が設定されます。</p> <p>(注) Web プロキシを明示的な転送モードで設定した場合は、データ用に設定された IP アドレス、M1 または P1 のいずれかを使用して、Web セキュリティ アプライアンスの Web プロキシに明示的に Web トラフィックを転送するよう、クライアントマシンのアプリケーションを設定する必要があります。</p>

項目	説明
トラフィック モニター	システムセットアップ ウィザードを実行すると、1つまたは両方の L4 トラフィック モニター ポート (T1 のみ、または T1 と T2 の両方) が、すべての TCP ポートのトラフィックをリッスンするように設定されます。L4 トラフィック モニターのデフォルト設定は、モニターのみです。セットアップ時、またはセットアップ後に、疑わしいトラフィックに対するモニターおよびブロックの両方を行うよう、L4 トラフィック モニターを設定できます。
コンピュータ アドレス	コンピュータの IP アドレスを、「 リモートアクセスのための IP アドレスの一時的な変更 」で書き留めた元の設定に戻すことを忘れないでください。 (注) システム設定のサマリは、[システム管理 (System Administration)] > [設定サマリ (Configuration Summary)] のページから確認できます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。